

平成 27 年度 第 4 回 羽曳野市総合基本計画審議会 記録

日 時	平成 27 年 12 月 20 日 (日) 13 : 00~15 : 00
場 所	羽曳野市役所別館 2 F 研修室
出席者	<p>会 長：吉川 耕司 (大阪産業大学人間環境学部教授)</p> <p>副会長：木村 眞知子 (婦人団体協議会代表)</p> <p>第 1 号委員 (市議会議員)：今井 利三、笠原 由美子、嶋田 丘、日和 千賀子、 松井 康夫、吉田 恭輔</p> <p>第 2 号委員 (学識経験者)：大関 雅弘 (四天王寺大学エクステンションセンター長)、 奥田 邦晴 (大阪府立大学学長補佐)、山内 孝幸 (阪南大学副学長)</p> <p>第 3 号委員 (市民代表)：尼丁 正寄 (人権啓発推進協議会代表)、上田 信彦 (市民ワーキング会議代表)、内本 和彦 (教育委員会代表)、黒川 健三 (商工会・観光協会代表)、越石 岬 (阪南大学学生)、堂山 幸作 (農業委員会代表)、中山 直子 (市民ワーキング会議代表)、花川 智彦 (青年会議所代表)</p> <p>事務局 羽曳野市…白形理事、南口課長、道簾課長補佐、菅原主幹、内本主幹、升本主幹 ランドブレイン株式会社…山北、甲斐</p>
次 第	<p>(1) 開会</p> <p>(2) 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の意見とその対応について</li> <li>・ 基本構想 (素案) について</li> </ul> <p>(3) その他</p> <p>(4) 閉会</p>
配布資料	<p>(資料 1) 第 3 回審議会での意見と対応案</p> <p>(資料 2) 第 6 次羽曳野市総合基本計画基本構想 (素案)</p> <p>(参考資料) 第 6 次羽曳野市総合基本計画策定にかかる意見 (パブリックコメント) 募集要領 (案)</p>
<p><b>■議事概要</b></p> <p>(1) 開会</p> <p>会長あいさつ</p> <p>吉川会長：早いもので第 4 回の審議会となった。ご案内の通り、この後にパブリックコメントを行い、第 5 回の審議会で議論した後、市長に答申を行う予定である。第 5 回目の審議会は最終確認となるので、実質上本日が最後の審議になる。これまでの審議の中で練っていただいているかなりよくなってきていると思う。総合基本計画の基本構想部分は大きな枠組みで書いてあるが、やはり行政の方々にとっては日々実務に携わる中での大事な指針となるものであ</p>	

ると改めて感じている。また、住民の皆さまにとっても、市の戦略に対するコミットメントが分かる大事なものであると思っている。これまでたくさんのご意見をいただき、修正を重ねることにより、だんだんと良いものになってきている。本日もご意見をたくさんいただければと思うので、よろしく願います。

## (2) 議事

吉川会長：それでは次第にしたがって議事を進行していく。まず前回の意見とその対応について、事務局より資料について説明をお願いします。

《(資料1)、(資料2)について事務局より説明》

吉川会長：まず意見対応案について、例えばこんなつもりで言ったのではないという話など、ご意見があればいただきたい。

「移住・定住」という表現については、25頁の産業・観光のところでは削除したが、26頁の都市基盤のところでは「移住・定住を支える快適な生活環境を確保します。」という形であえて残しているということでしょうか。

事務局：元々、全体的に表現として「移住」という言い方を見直すべきではないか、というご意見をいただいていたが、そこについては政策的な表現としての「移住・定住」という言い方を使いたい、と思っている。25頁は文脈的に修正する中で削除したが、例えば24頁の図中など、他のところでは「移住」という表現を使っている。

笠原委員：24頁の文章と図について。文章の中では1番目に「羽曳野の資源を活かしたまちづくり」、2番目に「だれもが安心・安全に暮らせるまちづくり」、3番目に「人口減少下の活力と成長に向けたまちづくり」と羅列されている。しかし図では、左から見ていくと1番目に「人口減少下の～」があって「資源」、「安心・安全」という並びになっている。些細なことだが、図に合わせるのであれば、文章も1番目に「人口減少下の活力と成長に向けたまちづくり」をもってきた方がよいのではないかと思います。文章を読んでから下の図を見ると違和感があるので、訂正をお願いしたい。

事務局：文章を先につくり、図を追加したという経緯があり、図を作成した時に順番を合わせる形では作れていなかった。ご指摘のとおり、文章に合わせるなら「資源」「安心・安全」「活力」という並びで図をつくるべきかと思う。ただ、そもそも3つのうちで優先順位があって、その順番自体を変えるべきだということもあるのかもしれないが。

笠原委員：そういう趣旨ではない。ただ市民の方が見たときに今の順番では不自然に感じるのではないかと、ということだけ。他に特に大きな支障がなければ修正した方がいいと思う。

また図中の「だれもが安心・安全に暮らせるまちづくり」について、下に「住み心地の良い定住環境の確保」と説明を修正していただいた。まちの将来像からのつながりであれば、「だれもが安心・安全に暮らせるまちづくり」という文言には重みがあっていいと思う。しかし、自然災害が頻発する厳しい状況において、安全・安心を「住み心地の良い」と表現するのは弱いように感じる。防災なども含めた表現としては少し引がかかる。

吉川会長：前半のご質問について。23頁の図の中のまちづくりの戦略目標の順番は24頁の文章と同

じようになっている。一方で24頁の図では順番が変わっている。さらに26頁の図をみると上の図が「資源」、左下が「活力」で右下が「安心・安全」となっている。あくまで私の個人的な感覚で言うと、24頁の図で1番目の「羽曳野の資源を活かしたまちづくり」が真下にあるのはよいと思うが、2番目3番目の左右が逆になっているように思う。

事務局：24頁および26、27頁の図については順番を検討したうえで、修正させていただく。

上田委員：26頁の図が時計回りになっているので、24頁も時計回りにした方がいいと思う。

奥田委員：24頁の文章を見ていて、書いている順番が重要だとして「人口減少下」という言葉が少しネガティブなイメージだと思うので、それが市にとって一番大きな問題であれば、これを最初にもってあげれば良いと思うが、そうでなければ「羽曳野の資源を活かしたまちづくり」が最も市の意気込みが感じられるので、文章はこの順番が良い気がする。

また、図については真ん中に「資源を活かしたまちづくり」が骨太な感じで挙がっているのは的確だと思う。図については2番目を左と右どちらにするかという議論はあると思うが、「資源を活かしたまちづくり」を1番にもってきているのは意味があると思うので、文章としてはこのままで良いのではないかと思う。

上田委員：24頁の図については「活力」と「安心・安全」を入れ替えた方が良いように思うがどうか。

吉川会長：まず文章については、戦略的に「人口減少下の活力と成長に向けたまちづくり」を前面に出す方法もあるかと思うが、特にその必要がないのであれば、文章の順番はこのままで良いと思う。

24頁と26頁の図については、どちらも左右を入れ替えることでどうか。事務局で再検討していただければ良いが、我々としては左から右の順番が良い。

笠原委員の2番目のご意見について。24頁の表の中で、まず前回の「安心・安全」という表現が重複していた部分を修正し、「住み心地の良い定住環境の確保」という表現になっているが、この文言で厳しい状況を言い得ているのかという疑問がある、とのことだったが。

事務局：委員が指摘されたのは、おそらく災害関係についてのことが主だと思う。「住み心地の良い定住環境の確保」という表現では、防犯関係のことなどは言い得ていると思うが、防災は確かに抜けている。少し文章が長くなってしまいが、「災害に強い」といった表現を頭に足すことで防災も表現できるかもしれない。

吉川会長：一言で全体を示すのは難しい。表現は事務局にお任せするので、考えていただきたい。

事務局：防災についての表現に関してはご指摘のとおり検討させていただく。

さらに「定住環境の確保」という表現については、人口減少のところで「移住定住の促進」とあり、「定住」という言葉が重複してしまっている。「住み心地の良い」というところで、住環境についての表現はできているので、「定住」という文言を抜いて「災害に強く住み心地のよい環境の確保」という形にさせていただくと総括的な表現になると思う。

大関委員：市の方で作っているから行政的な視点になると思うが、23頁の施策目標の表現を見ると、「地域のつながり」、「ともに支え合い」など市民が協力しながら安心安全なまちをつくっていく、というような形になっている。24頁の表も、市がそれを市民と一緒にやっていく

んだというスタンスで表現できないか。全体的に上から目線で政策的にシステムを整備するだけ、というように感じる。もちろんそれも大事なことだと思うが、ただ整えたシステムの中で安全安心、あるいは心地よくしていくのは市民である。そのために一緒につながっていきましょう、というメッセージが「だれもが安心・安全に暮らせるまちづくり」の基本ではないかと思う。それが災害や防犯、医療体制についても町内会や近所の人達がどれだけ協力できるかということに全て関わってくるので、根本的な話だがそういう形に変えられないかと思う。

事務局：市民協働で一緒に取り組んでいく、というスタンスについては、今の構成でいくと23頁の図の3つの戦略目標の下に、「まちづくりの基本姿勢」の一つとして「市民と行政による協働のまちづくり」を掲げている。また、「基本姿勢」と「戦略目標」は矢印でつながっていてお互いリンクしているという構図になっている。要は「戦略目標」としては市から打ち出しをするが、そのときに常に「基本姿勢」として市は当然に市民と協働して取り組んでいくということを表示している。

もちろん3つの「戦略目標」すべてに市民協働がかかってくるのは当然で、行政だけでできるものではないと考えている。「市民と行政による協働のまちづくり」と「経営の視点に基づくまちづくり」という2つの「まちづくりの基本姿勢」が大前提としてまずあり、その上で「戦略目標」としての3つの柱があるので、協働というものを部分的限定的に入れるということにはならないかな、と考えている。

大関委員：では、23頁の「まちづくりの基本姿勢」はどこに入っているのか。全部に関わるということを入れている文章ではないか。「まちづくりの基本姿勢」をもっと大きく載せた方が良くはないか。

それから、感覚的な問題だと思うが、23頁の双方向の矢印は対立ではなく双方向ということの良いのか。私の感覚では対立のように感じてしまう。

吉川会長：二重の四角で囲って「基本姿勢」の下に「戦略目標」を入れてみてはどうか。

奥田委員：矢印については、対立ではなく双方向だとも読めるのではないかと思う。

吉川会長：文章としては24頁の第二段落に、「市民とともに築いていく」とある。

松井委員：図の中で「戦略目標」の下に「基本姿勢」があるので、第2節が「基本姿勢」となっている。「基本姿勢」を上を持ってくると構成自体が変わるのではないか。

笠原委員：矢印をお互いにフォローし合うサイクルの形にしてはどうか。

また、話が少し戻るが、今の時代に10年間の目標を策定するというところで、やはり安全安心、特に防災について検討したという事実は重要なことだと思う。防災についての表現をもう少し加味していただきたい。

事務局：23頁の図があまりうまくないのかもしれない。ご指摘のとおり、この図を見る限りは「基本姿勢」が少し弱いように感じる。文章の中では「戦略目標」と「基本姿勢」の相互関係について表現しているので、図をもう少し工夫すれば良いかと思う。

吉川会長：図の修正とあわせて「住み心地の良い」の部分には防災についての表現を加えていただくことでお願いしたい。

また、上から目線ということ言えば、25頁(1)の中の「コミュニティを形成します」という表現は少し上からの言い方に感じる。コミュニティそのものを役所が作るわけではないので、形成をサポートします、支援します、などの表現の方が良いのかなと思う。ここも修正の検討をお願いします。

奥田委員：細かいところだが、24頁の一番上のところで将来像の「～みんなで作る だれもが住みたいまち～」が太字になっていない。ここまで太字にするのかどうかを確認したい。

また25頁の(1)の中で、高齢者福祉ということで高齢者に限定しているが、これをこのままの表現にしておくのか、高齢者・障害者福祉とするか、あるいは単に福祉とするか確認させていただきたい。

事務局：将来像の表記についてはすべて太字に修正する。

吉川会長：高齢者福祉については、(2)に福祉・医療の項目があり、どう扱うかが問題である。

事務局：◆ひと・コミュニティのところにある高齢者福祉は10年間に顕著に表れてくる社会問題としての高齢化問題に対しコミュニティを特に重要視していく、という意味合いも含めて書かせていただいております、特出ししておく必要があると考えている。

奥田委員：了解。そういう意味では「高齢者の健康・福祉」といった表現でも良いと思う。

吉川会長：そもそもどこに掛かっているのがよく分からないところもある。(2)の内容とも重複するが、「子育て、教育、高齢者の健康・福祉、防災・防犯」のような表現が良いのかもしれない。

笠原委員：(1)の◆ひと・コミュニティは、まさしく地域コミュニティのサポートにつながると思う。今後社会は1人ずつコミュニティを形成しながらやっていく、いわゆる地域包括支援という体制が子育てや高齢者福祉にも必要となり、地域コミュニティのサポートはなくてはならない。ただ、(2)◆福祉・医療のところ「ふれあいネット雅びの充実など地域で支え合う福祉体制の確立」とあるが、この部分は(1)の◆ひと・コミュニティの内容と重なるので(1)に入れた方がいいのではないかな。これからは市が中心になるというよりは、地域で取り組む時代が変わっていくと思うので、そういう視線で考えていただきたい。

吉川会長：少しイメージが違うかもしれないが、私としては、例えば体制をつくるということについての行政の役割、役所がすべきことを◆の項目で示しているという気がしている。そういう意味でやはりそもそもの文章がおかしいようにも思う。例えば、「地域の見守り活動の推進や地域を支える人材の育成などにより、子育て教育、高齢者福祉、防災・防犯を協働で担う、つながりや温もりのある豊かな地域コミュニティの形成をサポートします。」の方が良いと思う。あとは個人の文章スタイルという話になってくるが、違和感があるという意見があった、ということは認識してもらって、事務局の方で文章を検討して欲しい。

内本委員：60数年間羽曳野に住んでいるが、地域の伝統行事が大変な状態である。地域のコミュニティがだんだんなくなってきていて、地藏盆や祭りのイベントなどの担い手がなくなっている。地域コミュニティと高齢化が現状としては大きな課題だと思う。

吉川会長：先ほどの意見を取り入れていただけるか分からないが、「地域コミュニティを形成します」の部分を修正するのであれば、例えば「強力に支援する」というような表現で、地域コミ

ユニティが成り立たなくなり、伝統行事もなくなってきているという現状に対して重点的に取り組むのだ、ということが伝わるような表現を是非お願いしたい。

嶋田委員：総合基本計画の基本構想なので、はっきり出すということが必要だと思う。コミュニティを形成するために10年間をどう進めるか考えた場合に、◆ひと・コミュニティのところの文の終り方が「コミュニティを形成します」とかそれを「支援します」とかでは強い感じがしない。(1)の◆自然・歴史文化と◆既存資源をみると、それぞれ項目そのものが前に来て主になっているので、◆ひと・コミュニティでもコミュニティの形成をサポートするために、を前にもってきた方がすっきりするのではないかと思う。例えば、「豊かなコミュニティの形成を図るため、子育てや防災・防犯などの施策をしっかりと実施していきます」というような方針的な文章のほうが構想としては良いと思う。

吉川会長：目的やねらいをまず述べて、具体的な取組みを次に挙げるという形で、ぜひ検討をしていただきたい。

今井委員：内容のことではないが一点お聞きしたい。現在都市計画審議会が審議中で、都市計画マスタープランも同時期に策定されるとのことだが、2つの計画の整合性については調整しているのか。

事務局：市では現在、総合基本計画と都市計画マスタープラン、さらには総合戦略も同時に策定している。関係課と連携しながら、計画の整合性はとらなければならないという話はしている。位置付けとしてはあくまで総合基本計画が最上位計画ということで、都市計画マスタープラン等は総合基本計画に基づいてさらに詳細を定めていく計画、として認識している。担当課同士連携をとりながら、最終的には内容の整合性を図りたいと考えている。

今井委員：22頁の将来都市構造について、内容的には変わらないのか。

事務局：もし不整合があれば、その時点で修正させていただくことはありえる。22頁の図は現行総計の将来都市構造図をベースとして作成している。一方で、現行の総計に基づいて現行の都市計画マスタープランがある。総計としては現行のものを受け継ぎつつ、新しい要素については取り入れながら、新しい都市マスとの整合性も同時に図っていくというイメージである。

吉川会長：例えばこの審議会でも22頁の図について、これはおかしい、修正すべきという話になったらそれが都市マスの方にも反映されていくということか。

事務局：完全に矛盾するような表現になっていたらおかしいので、その場合は整合性を図ることになると思う。

吉田委員：22頁に第3節将来都市構造の基本方向が載っており、これまで羽曳野の中だけで議論されているが、前の10年の総合基本計画では世界遺産という話がなかった。しかし、世界遺産の話はあるものの、堺に向けての東西の公共交通がない。これからの羽曳野のまちづくりを考えると東西の公共交通がなければならないと思う。現状では、羽曳野から堺に行こうと思えば鉄道を利用した場合、阿倍野橋か河内長野まで出なければならない。世界遺産になったとしても堺まで直接行く公共交通がないことについて、なんとかならないかという話もよく聞く。これからの羽曳野のまちづくりは東西交通を考えていくと一行でも入れて

もらえればと思う。羽曳野だけで考えていても今後頭打ちになってしまうので、もう少し大きな話として広域的に人が動く鉄道を考えて欲しい。箕面で鉄道が延伸されたり、門真の方では空港に行くモノレールもあり、あの辺りは人口がとても動いている。まちの基本は道づくりであり、鉄道も道である。今後 10 年の計画の中に入れてほしいと思う。

黒川委員：私も世界遺産の関係で堺との東西交通について、鉄道会社の担当者に話を聞いたことがある。ところが、南海も近鉄も、まず鉄道は無理だ、という話で、じゃあバスはどうかとなったけれども、やはり採算が見込めない以上は難しい、という感じだった。そこで費用負担についても、100%鉄道会社負担ではなく、公費、民間でも分担する形ならどうか、という話もしてみたがなかなか難しい、との反応だった。

事務局：22 頁の都市構造図については、確かに今後の世界遺産認定のお話もあり当初に反映できないかというお話もあった。ただ、この図で示している「拠点」はあくまでも既存の公共施設と近々に完成する見込みのある公共施設に限っている。

一方、それぞれの「軸」については既存の道路や鉄道の路線を示している。例えば古墳や、民間の施設、あるいは今後 10 年間に予想される新しい動きなどを積極的に図に載せていく、ということは今の時点では考えておらず、あくまでも今あるものをどう活用していくか、というのがこの図の基本方向となっている。

吉川会長：私は交通計画が専門だが、確かに鉄道を引くということを総計に書くのは無理だと思う。

ただ交通ネットワークというものが市域で閉じているはずがない、というのは全くその通りである。しかし文章を見ると、「市域の主に周辺部において広域的に連携する道路ネットワークが充実している一方で、市域内における道路ネットワークの状況は必ずしも良い状況とは言えず…」とあり、市の内側だけで閉じてしまった表現になっている。せめて外部とのネットワークの連携など、具体的には書かないにしても言葉だけでも入れないと交通の基礎的な面が分かってないのではないかという印象になる。外部とのつながりを含めた公共交通ネットワークも考えている、ということがわかるような表現をお願いしたい。

山内委員：言葉の使い方について、基本構想の中で「目標」という言葉が何度か出てくる。私は経営が専門だが、「目標」というのは何をいつまでに、どのレベルまでかを示さなければならぬものであるはず。それで言うと 21 頁の「目標人口」とのところでは、平成 37 年の人口について具体的な数字が入っているのでもいいと思うが、23 頁の「戦略目標」では具体的な数字が見当たらない。ここでいう目標値は何か。「目標」という文言について、このような使い方が行政で通常に使われるのであればそれがかまわないが、私の感覚では言葉の使い方に違和感がある。

事務局：ご指摘の通り「目標」という表現を使っているが、具体的なこの数字を目指すという意味で掲げているわけではない。「戦略目標」という表現は、「戦略」と「目標」という二つの言葉を組み合わせているものであり、実際はどちらかといえば「戦略」に近い意味合いになる。基本計画の方ではそれぞれの施策の目標を数字として出てくるものとは思うが、ここでは確かに「目標」と書いているが、数値を示しているわけではない。

山内委員：ここに「目標」を書いたかぎりは数値を書かなければ、第 5 次総合基本計画がそうであっ

たように、振り返りができないのではないかと。数値があれば何がどれだけ達成できなかったのかを振り返ることができるが、それがないと大雑把にこんなまちをつくりますという「目標」に対し、漠然としか結果を振り返ることができない。ここに書かないのであれば、手元資料でも良いのでそれぞれの項目ごとの目標数値を挙げていくべきだと思う。そうしないと計画はたてましたが何もできませんでした、ということが繰り返されてしまう。

事務局：目標数値と振り返りについては、基本計画のほうで、少なくとも施策ごとに代表的な指標を掲げて、どれだけのパーセンテージが達成できたのかを振り返ることができる仕組みを検討中である。

吉川会長：我々は基本構想までで、基本計画については審議しないが、その目標の数字の部分については我々にも教えておいてほしい。今の話だと、基本計画の中でそれぞれに指標を掲げていくことにする、ということでしょうか。

事務局：基本計画の全ての取組について指標を掲げるのは難しい部分もあり、調整が必要である。しかし少なくとも施策ごとに代表的な指標は掲げる予定である。3頁にも記載しているが、10年間の基本構想の中で基本計画は5年毎に見直しを行い、施策については毎年度達成度をチェックするというで適切な進行管理をしたいと考えている。具体的にどのような形で示すかについてはまだ検討中であり、本の形になった時にはお示しできると思う。

また、「戦略目標」という文言については、ご指摘のとおり「目標」という部分が紛らわしいようであれば、「まちづくりの戦略目標」を「まちづくりの戦略」という表現に全面的に変えさせていただきたいと思う。

吉川会長：その形でいいと思う。改めて23頁の図をみると、3つの「戦略」については終り方が「〇〇なまちづくり」となっているので、「戦略」でいいように思う。一方で、基本計画の方に書いてある「施策目標」については全て「〇〇なまち」という表現になっているので、これは「施策」というよりは「目標」の説明としてふさわしい書き方になっているように感じる。

嶋田委員：そこを変えるのであれば第2章の題目も変わるのか。そうすると「まちづくりの戦略と基本姿勢」というタイトルになるのだと思うが、今度は「戦略」と「基本姿勢」というものがどう違うのかよく分からない。

事務局：その言葉が表現として相応しいかどうかという問題はあるが、こちらのイメージとして3つの「戦略」は、市としてこの10年間の取り組みの中で特にここに重点的に取り組んでいきたいという意思表示の部分として前に打ち出すものである。一方の「基本姿勢」については、市がどの施策においても、当たり前に取り組むべき基本的な姿勢という位置づけで考えている。

吉川会長：第1節「まちづくりの戦略」と第2節「まちづくりの基本姿勢」について、文章構成は同じような組み立てになっているので、23頁の図中の「基本姿勢」についても上の「戦略」と同じように四角で囲む形にしてはどうか。「〇〇なまちづくり」という表現も一緒なので、同じ書き方にした方が良く思う。

事務局：23頁の表はご意見を踏まえて組み直しさせていただく。



大関委員：23 頁の文章をみると「まちづくりの基本姿勢」の“市民と行政による協働のまちづくり”により」という書き方になっているが、この「より」は手段なのか、それともそういった姿勢を貫くということなのか。そこをはっきりさせないと、私のイメージの中では「まちづくりの基本姿勢」という大きな括りがあり、それに基づいた「まちづくりの戦略」が3つ出てきて、それがさらに基本計画として具体化されていくというイメージである。根底にあるのは「まちづくりの基本姿勢」であり、その中に「戦略」が出てくるものだと思っていたが、今の書き方のままだと柱が5個あるということになっている。私の理解では、2つの「基本姿勢」をもって3つの「戦略」をやっていく、ということだと思っていた。話を聞いていると少し違うように思う。構成として例えば1節と2節を入れ替えてもいいのではないかと思う。

吉川会長：「基本姿勢」はベースとなるものではあるが、打ち出したいのは「戦略」である。どちらを先に書くのが良いかということであれば「戦略」なのかという気もするが、つながり方についてはもう少し考えていただきたい。

山内委員：23 頁の文章では、「まちづくりの戦略目標」は、「まちづくりの基本姿勢」の“市民と行政による協働のまちづくり”により実現し、また、その実現は“経営の視点に基づくまちづくり”を確立していく」とあり、それはつまり「戦略」の実現を通じて経営の視点に基づくまちをつくっていく、ということである。ということは、「基本姿勢」の2つは並列になっていないと思う。

吉川会長：それでいいのか、という感じはする。今の表現のままだと、いろいろ努力することによって経営的視点を今から作っていきます、という風にしか読めない。実際にはそれがゴールではないはず。経営的視点はすでにできていることなのでは。

山内委員：その通りだと思う。本来は“経営的視点”と“市民と行政による協働”という2つがあってはじめて、3つの「戦略」が実現されていくということだと思う。ところがこの文章では市民協働のまちづくりがあり、それに基づき3つの戦略があり、その戦略を実行することにより経営の視点によるまちづくりが実現できる、と書かれている。

吉川会長：この説明文は「戦略」と「基本姿勢」の位置付けがおかしいのではないか。

事務局：要は「戦略」と「基本姿勢」という二つの視点に立ってまちづくりを進めます、ということが良いと思うがどうか。

一 同：それで良いと思う。

松井委員：23 頁の図の中の基本姿勢の色と 24 頁以降の図の色は同じ項目なら同じ色にした方が分かりやすいのでは。色は統一した方がよい。

奥田委員：17 頁の下から二行目だけ「障害者」が漢字になっているが、他は「障がい者」となっているので修正していただきたい。ひらがなの方が良いと思う。

事務局：「障害」の表記については、総合基本計画もだけでなく広報・出版物等について市としてのコードを統一しようという動きがあり、内部で協議した上で調整させていただく。

奥田委員：15 頁のサクセスマップが私の目では読めないなので、大きくしてもらいたい。せっかく市民ワーキングの意見をまとめているので、横向きにして1ページ使うなどレイ

アウトを考えていただきたい。写真を14頁の下に入れるなどしてはどうか。

大関委員：25頁の◆福祉・医療にあるふれあいネット雅びは具体的な事業名なので括弧が要るのでは。

吉川会長：他にもお気づきの点があればぜひ事務局に伝えていただきたい。

### (3) その他

事務局：連絡事項として、本日パブリックコメント募集要領案の資料をお配りしている。12月24日から1月14日までの間、基本構想部分について市民のご意見も募集させていただこうと思っている。その募集の概要をお知らせとしてお配りさせていただいている。パブリックコメントの終了後それに対する対応をまとめた上で、次回の審議会を1月24日（日）の13時から行う。今回はパブリックコメントの結果をご報告させていただき、基本構想の答申の最終案をご提示する。皆さまに確認後、微調整を行ったものを会長から市長に答申していただく形で考えているので宜しく願いしたい。

### (4) 閉会

以上